

第5回熊本市震災復興検討委員会

日時:平成28年9月21日(水) 18:30~

場所:熊本市役所 本庁舎4階 モニター室

● 次第

- 1 開 会
- 2 市 長 挨 拶
- 3 委 員 長 挨 拶
- 4 議 事

(1)熊本市震災復興計画(案)について
(パブリックコメントの結果含む)

- 5 閉 会

市長挨拶、中山委員長の挨拶の後、事務局から熊本市震災復興計画(案)について説明を行い、審議・意見交換を行った。

● 議事概要

(1)中山委員長挨拶

今回、第5回目で、委員の皆さま方には、長期間にわたり色々ご提案を頂きまして、心から感謝を申し上げたいと思います。前回は8月3日に開催し、皆さま方から頂いた提言がまとめられ、その後、その内容等についてご一任頂きました。そして市から私の所にもってきて頂いた計画書を、先生方のご議論に沿った内容ということで、私の方で承認をさせて頂きました。その後、パブリックコメントで、市民の皆さま方にご提示なさいました。今日は、そのパブリックコメントの結果を背景にしなが、若干の修正を加えて、最新の計画書が出来上がったということです。今日は、その内容について、ご審議を賜りたいと思います。今日が、いわば最終案になろうかと思ひます。昨日、対策本部を解散されまして、それと同じ時期に、最終復興計画が出来上がりつつあります。今後はそれぞれの市の担当の皆さま方が、それぞれの部署の役割をしっかりと担って、この復興計画あるいは第7次総合計画等を勘案しながら、これからの熊本の復興あるいは市民の皆さま方の生活の復旧・復興を目指して行くことになろうかと思ひます。今までは対策本部で中心的にやって頂いたことが、この復興計画ができることによって、市の職員の方が、それぞれの実行計画を、計画書に基づいて作って頂いて、それを実践して頂くことに移行するのではと思ひています。市の職員の皆さま方には、ご期待を申し上げたいと思ひます。いずれにしましても、市では、避難所がほとんど閉鎖をされたということでした。これからが本当に厳しい復興になると思ひます。是非、今日のご議論の中にもそういったところを踏まえながら、ご意見を賜ればと思ひますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(2)熊本市震災復興計画(案)(パブリックコメントの結果含む)について意見交換

(中山委員長)

パブリックコメントに基づいて、分かりやすく資料4を基にご審議頂きたいと思いますので、何かご意見等ありましたら、ご発言を頂きたいと思います。

(鈴木副委員長)

資料2のパブリックコメントですけれども、3ページ、4ページに主要な意見が紹介されていますが、おそらく似たような意見をなぞらえて、こういう表現になっていると思いますが、これに対する対応ですね。対応のパターンのおそらく1はもう出ていますけれども、2から5があるんですね。全てホームページで公開されると思いますが、それぞれの意見に対して、どういう対応したのかというのが必要ではないかと思いました。それは中身の話ではないのですが。

(中山委員長)

事務局の方からお願いします。

(事務局)

資料の2の中に先ほどの説明に加えさせて頂きたいのですが、意見募集結果の公表日ということで、9月30日(予定)としていますが、9月30日、全ての意見等と、それに対する対応について、全て公表するということで予定しています。ホームページで公表するということで、全ての意見について対応状況をきちんと公表してまいります。

(竹内委員)

今の副委員長の話にも関係して幾つか手短に意見を申し上げます。なお、ご対応は基本にお任せするという事になるかと思いますが、第一に、私ども日本銀行でもこういったパブリックコメントを取る時があります。ご経験のある方はわかると思いますが、100件もの数が集まるのは凄いことでして、市民の皆さんから様々な意見が寄せられたこと自体がまずもって、非常に評価できるというか、アプリシエイトできることだと思います。大変有り難いというか、市民の皆さんの関心の強さと意識の高さを感じたことを、率直な感想としてお伝えしたいと思います。第二ですが、ご対応は先程言われたように公表されるということですが、例えば4ページの「熊本震災の日」とかですね。これは市でやるべきか県でやるべきか色々あるかと思いますが、非常に分かりやすいご提言ですし、その下に記載されている保育所の制度などにつきましては、これはおそらく市がお答えをお持ちだと思いますが、制度的に改善すべきではないかというご提案ですので、できるだけ対応は速やかにして頂くことがよいのではないかと感じました。第三になりますが、こういうご意見が出てくると自体が傾聴に値すると感じたのは、3ページの下から四つ目ですね、「熊本城の復旧を焦らず応急措置に留めてはどうか」というご意見です。こうした声が出されることは多分に予想されるし、非常に貴重な意見だと思います。その上で、市としては熊本城の復旧を2019年の世界的なスポーツイベントに向けたシンボル

として進めていくこと、世界に対し熊本復興を分かり易く発信していくためにも、まずは天守閣を修復していくのだというご方針でしょうか、ご納得頂けるかどうかは別として、せっかく出して頂いた意見ですので、そうした考え方を、色んな場を通じて、丁寧にご説明頂くことが大事だと感じます。もちろんそうされると思いますが、あえて、感想を申し述べました。

(中山委員長)

ありがとうございます。ここには代表的な内容あるいは要約した内容が出てきていますので、公表される時は、そういう具体的な提言あるいはパブリックコメントについての対応になるのではないかと思いますけれども、基本的には委員会等で色々審議した内容を踏まえた形で、ご対応して頂ければと思っていますところ。事務局の方でよろしくお願ひしたいと思っています。

(小林委員)

今の竹内委員とも関連している点ですが、私も今回のパブリックコメントの中で、一番気になったところは、こんなにひどい目に遭っている私たちをよそに、MICEを凍結しないのかというご意見が2つぐらい主な意見として、ここに書かれていることが気になっています。今だからMICEをやるべきだと、今だからこそMICEのような機会を通じて、世界に向けて熊本は頑張っているんだと、あるいは熊本に来て実際に見てくださいということ、うまく伝えるいい機会でもあるわけで、このMICEを凍結しない理由が、市民の生活を無視しているわけではなくて、市民の生活を考へて市民の生活の基盤を作るためにも、経済を回すためにも、すごく重要であることを、市民の方たちに納得いただくことはすごく重要です。勿論、復興計画の中にMICEやりますと、こういう形で何かやりますと、というような形で書いてはありますが、なぜ今MICEなのか、この時世、時点でなぜMICEを今やるんだということ、やはり竹内委員が言われるように、丁寧に説明する必要があるのだらうと思います。おそらく、あそこに少しずつビルが建ち上って行くのを横目で見ながら、自分たちの生活はあまり変わらなく、未だに罹災証明を出したのも受け入れられず、そして家も無くみたいな状況を横目に見ておられる多くの市民の方達は、何であんなものを建てるお金があるなら、自分達の家を何とかせなんと、絶対お考へになると思ふんですね。でも、回り巡って経済が回ることが、実はあなたたちの生活を豊かにすることに繋がるんですよと、何かの形でしっかり発信できた方が、MICEに対する機会も生まれると思いますし、熊本城と同じように少しずつ変化していく様子を皆が楽しみに待てる、これはおそらく熊本の駅ができる時も同じだと思ふますが、熊本はこの震災をきっかけに変わるんだと、そのためのシンボルがそういう工事の、今の皆さんが目に見える景色だということが、なるべく分かるような形の説明が必要だらうと思います。

(中山委員長)

ありがとうございます。事務局から願ひします。

(事務局)

資料2の1ページをご覧頂きたいと思いますが、最終的に公表については、先程竹内委員からもお話がありましたように、始終色々なパブリックコメントをやっていますが、ご意見の件数が100件、3桁を超えることは、実は私達の中でもなかなかありませんので、そういう点ではご関心を頂いているのかなと思っています。また対応は、5つに分類していますが、対応1は意見を基に素案を修正し、2は、ここにこういう考え方を盛り込んでいるということで、ご意見の趣旨と同様のことが書いてありますよとお知らせすると。対応3は、今、竹内委員や、小林委員が言われたところはここになると思いますが、こういった意見があったことに対して、熊本市としては、やはり市民生活を下支えする地域経済を併せて、架設していくことは非常に大切だと。特に2019年の復興コンベンション等も控えており、その辺りに向けて力強く発信していくところで、今進めていることを付記して、きちんと説明し、公表をさせて頂きたいと考えています。また対応4は、先程竹内委員からお話があった「震災の日」についても、これから総合防災訓練とか、地域に根ざした訓練等を展開する中で、こういったご意見を参考にさせて頂きながらやっていくということで、各々この100件毎に、対応状況をきちんと記載した上で、ホームページ等で公表するというようにしています。

(中山委員長)

ありがとうございます。実際の実施段階において、パブリックコメントを参考にしながら、あるいは取り入れながら、やっていく部分もあるということです。他にございませんか。

(松田委員)

パブリックコメントの4ページの上から4番目の、「震災の記憶を次世代へつなぐプロジェクト」の意見の中に、11ページの中と思いますが、読まれた市民の方は単に記憶を伝承するというイメージで捉えられているんですが、我々はそういう意識ではなくて、むしろ、記憶を次世代へ活かすという意味でこれを設けているわけです。この「・」まで読んで頂くと、おそらくご理解はして頂けるはずですがけれども、こういう意見が出たということは、前書きの4行の部分ですね。「伝承していきます」までしか書いてないので、「伝承して防災・減災につなげていきます」ぐらい書き込んだ方が、前向きニュアンスが伝わるのではないかと思います。

(中山委員長)

ありがとうございます。パブリックコメントの時には「・」は公表していなかったのでしょうか？

(事務局)

いいえ、全て公表しています。

(中山委員長)

ありがとうございました。この資料4が、このまま次は議会でご議論して頂きまして、本議会で

承認を得て、そして実際の施策として実施されていくこととなります。長い間審議してまいりましたので、今さらというお気持ちがあるかもしれませんが、資料4をご覧頂き、この部分について、今思いついたがこうしたらいいのではないかと、というのがあればご意見を賜りたいと思います。

(後藤委員)

プロジェクト5の「次世代につなぐ」についてですが、確かにパブリックコメントでも、ネガティブな面の意見ばかりが出ているようですが、先ほど松田先生が言われていましたけれども、ひとつとしては語り部云々ということだけは書いてありますが、いわゆる震災を受けて、どういう心象風景が広がったのか、そういうことも大事なあとだと思います。防災とか直接そちらだけに役立つ云々だけではなく、いわゆる歴史と言いますか、人間として生きていくなかで、どういうふうに震災があったんだというところの心象風景の伝達というか、伝承とか記憶とかの視点での取り組みは無いのでしょうか。今さらでの思いつきで申し訳ないのですけど、ここでは、このような視点での何か取組は無いのでしょうか？防災・減災だけのための記憶ではないのではないかと思います。

(事務局)

今、各地域で、例えば帯山校区あたりでは、それぞれの地域で避難所の運営から発災後、すぐどういうことをされたかまで、記録史に残しておられます。そういったところを集めて、熊本市としても職員あるいは避難所運営に携わって頂いた色々な地域の方々、ボランティアの方々の振り返りといった情報を集めて記録史にするなど、色々なことを考えておりまして、その中で、もちろん防災・減災のまちづくりに伝えていきますし、発災後の直後に、どういう行動を取られたかということも、町内の自治会長様や市民の皆様方にアンケート調査をして、アーカイブとして残していこうと考えています。また、復興情報を発信する拠点の整備については、県の復興計画にも、そういったものを検討されているというところですので、県と一緒に協調しながら、そういう拠点の整備についても検討してまいります。それを発信できるようなアーカイブも、今、色々な情報ツールを使って収集しているところです。

(後藤委員)

すみません、先ほど防災・減災だけのためではないと言いましたが、そこは口が滑ってしまいました。そこも含めて、先に申し上げた視点を是非入れて欲しいです。ここでは語り部の講話の開催だけになるのかなあとと思いますが、これ自体読んでも、そうはあまり伝わってこないようです。しかし、ここでの限られた文脈、文言では「語り部講話の開催など」の文章のみになるような気がします…。それと別件で、少し細かいことですが、ここでの“てにをは”についてですが、この文章の最後の4行「熊本を訪れる観光客や、」になっていますよね。ここは少しおかしいなと思います。次の行でも「感じられるような、」になっています。「、」は要らなくて、「整備について、」など何か読点の付け方がこの行は少し読みにくいんですよね。「、」の付け方

で読みにくいのか、全体の流れとして読みにくいのか、どうでしょうか。

(事務局)

今、我々熊本市の校正を担当する部署がございまして、そういった部署と読み合わせをやっています。句読点の付け方あるいは修飾語、そういった所も最終的な詰めをさせて頂いていますので、今頂いた意見については、そういう中できちんと修正すべきところは修正していきたいと思います。

(中山委員長)

確かに少し句読点の打ち方に問題がありそうですね。よろしく願いいたします。この震災の記憶というのが、必ずしもひどいことばかりではなくて、私は今回の震災では、県外から色々な方がみえられて、インフラも非常に早い段階で復旧したといったことも、きちんと伝承の中に入れていく、あるいは地域の人たちが協力合って、震災後素晴らしい支え合う姿といったことも伝承していくべきかなあと思います。ここに書いてありますような語り部云々の中に、そういったことも盛り込んで頂くとありがたいと思います。

(菅野委員)

やはり防災・減災は気になります。資料の23ページ、1番最後の「・」の「平時から、地域との連携強化に向けた取組みを進める」と書いてあることは非常に素晴らしいとは思いますが、最後の表現ができれば、「それぞれが役割を分担しながら、円滑な避難所運営などの対応に当たります」とあります。これだけ、災害対応自体のことが書かれているんですね。どちらかというと計画ですので、準備をどうするのか、こういう円滑な避難所運営をするために、何を準備しておかなければいけないのかということ、書いて頂く方がいいかなと思っていました。例えば“対応に当たるように準備する”と、そういう表現でいいかと思いますが、ここだけ精神論になってしまうというのが1点でした。もう1点、同じく24ページで、(3)避難環境の見直しということで、避難環境という言葉を入れて頂いたのは素晴らしい、ありがたいなと思いますが、中身を見ていて、やはり避難所だけを捉えている部分もあるのかなと思います。今回の地震でも、在宅におられた方や、県外に避難された方などおられましたので、避難所の指定だけではなくて、そういった避難所には来られないような人たちへの対応をどこかに追記すべきかなあと思います。どのような環境にも比較的かぶっている④の応急給水体制の強化というところは、避難所にとどまらない話かとは思いますが、そういった方々への配慮と言いますか、どこまで地域防災計画などに反映できるか不分明なところはありますけれども、どういう対応するのかはもう1度ご検討頂ける方がいいかなと思っておりました。

(中山委員長)

事務局の方ではいかがでしょうか。

(事務局)

事務局の方で承りまして、検討させていただきます。

(相藤委員)

先程の“てにをは”のところですけど、読んでみると、「今回の地震」とか、「熊本の地震」とか色々でてきていますので、統一して頂いた方がいいのではと思います。それと、やはり色々盛り込みたいので、「など」という言葉を多く使われていると思いますが、例えば、見え消しの25ページにありますけれども、「市民の災害対応力の強化」の2番のところに、「食料・水等の備蓄などの呼びかけ」、「などの」「などの」という形できているので、そういうところは整理して頂けたらいいなと思います。それから、先ほど言われたように、どう取り組んだのかという記録はとても大切だと思います。ですから、先程、政策局長から言って頂きましたが、熊本の今まで色んな対応して頂いた所の、それぞれの経過を辿った記録を集めて、それを資料にして頂くことを是非お願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(中山委員長)

ありがとうございます。事務局の方、よろしくお願いいたします。

(松下委員)

12ページですか、私が言ってきましたメカニズム研究は、専門家でも意見の分かれるところでしょうから、簡単に正解が出るわけではないでしょう。とはいえ、やはりそれに近づく、研究する大学と連携を密にすることで、さらにどこまで研究が進んでいるのかを行政として発信することは、非常に大事な事かなと思っています。ここに入れて頂いてありがとうございます。後の方で、これから都市圏部の市町村との連携が非常に大事になってくるのかなと思っています。先日、罹災証明の書式が違っていたということで、熊本市だけ若干簡略化されていたのでしょうか、他の自治体に向けてお詫びをされたということで報じられましたけども、やはり熊本市だけ突出した形でいては、将来にも禍根を残すかなと思います。36ページ、ここは「近隣自治体への支援」と出ていますが、支援でいいのかなとは思いますが、何か支援してあげるみたいな、ニュアンスを少し感じます。これこそ、お互いさまというところもあろうかと思っていますので、その辺りは今後、どういう形で連携をしていくのかを、きちんと軽んじずやって頂きたいと思っています。それから、MICEについても、先ほど、出ていますとおり、この間の市長選でも論争になったくらいですから、きちんとした形で説明していただきたい。市長はやると表明されましたが、財源の問題については、深刻な被災者ばかりじゃなくても普通の市民でも心配するところです。それから市電も延伸する意向でしょうから、いくらお金があるのかなというのは、気になります。ただ、それによって市民が元気になればというのがあるので、その辺りはきちんと説明された方がいいと思っています。

(後藤委員)

少し門外漢ですけど、29ページの「企業立地の推進」について、確か先日のこの検討会で、どなただったでしょうか、震災があったからこそ熊本に企業を誘致できるというようなことを言われて、「ああ、なるほどなあ」と市民感覚として思いましたが、そのことでしょうか、「復興を経て生まれ変わった『安全・安心なまち熊本』を」と書いてありますけれど、これだけでは市民感覚としては分かりにくいと思うんですよね。つまり、「震災があったからこそ、企業さん来てください」みたいなことを、前々回でしたか、ある委員の方が言われて、非常に感心したんですけど、ここの言い回しが少し薄いのかなあと感じて、もう少し強く言っているのかなと思います。いかがでしょうか。

(中山委員長)

事務局、いかがですか。

(事務局)

今、委員が言われている点は、前回の検討会で意見をいただいたところですが、積極的な資本投下ですとか、事業の戦略的な企業立地補助制度というような形で、委員からされますと、もっと大きくというご意見ではございますが、積極的にいきたいという行政の姿勢、および戦略的に企業立地補助制度をやっていきたいということで表現させて頂いていますので、意見を踏まえた修正という形で追記をさせて頂いているところです。

(後藤委員)

職員や関係者の方々は、これで十分理解できるということによろしいのでしょうか。

(事務局)

こちらの方が、今後この計画を踏まえた実施計画等々を作成する中で、具体的な事項につきましては、ここに限らず全ての項目、章立てにおきまして、もっと具体的なものが予算に必要な等々、実施計画の中で示されるものと思われま。大枠の方向性を示すという計画においては、このような形で、積極的に戦略に行っていくということで、その中で具体的に職員は事業立てを行っていくとも考えています。

(谷崎委員)

今の所の、「戦略的な企業立地補助制度となるよう再構築を検討する」という言葉の部分が、私は少しわかりづらくて、「～となるよう再構築」を取って頂いて、「戦略的な企業立地補助制度を検討するとともに」の方が分かりやすいかなと。震災を踏まえて、おそらくそれを生かした、生まれ変わった企業立地の補助制度というのが出来上がるのだらうと思いますので、そういう意味では「戦略的な企業立地補助制度を検討する」と言って頂いた方がいいかなと。既に企業立地補助制度はあるのだらうと思いますが、それを云々と言うよりも、さらっとした方がいいの

かなと思いました。それと前ページの28ページで、2カ所ほど「活用する」という言葉が使っています。(1)の6行目の所で、「地元企業を積極的に活用することで地域経済の活性化を図ります」。それから、②の所の2つ目の「・」で、「研究者を活用するなど」という言葉があります。この「活用する」という言葉が少し気になりまして、この言葉を少し工夫して検討して頂けたらと思います。上の方は「復興に向けた各種取組に対して地元企業と連携して、地元経済の活性化を図ります」といった使い方ができないか、下の方も「研究者の協力を得て」という言葉にできないのかということです。

(中山委員長)

ありがとうございました。事務局いかがですか。

(事務局)

まず1点目の企業立地の方につきましては、委員の言われたとおり、従来の企業立地補助制度がありますものですから、再構築という言葉を使っているところですが、これにつきましては、ご指摘をふまえて検討したいと思います。2点目の“活用”の使い方につきましても協力等々をふまえて、こちらの方で検討させていただきます。

(中山委員長)

よろしくお願いたします。もう意見はほとんど出尽くしたかなという感じがしますが、本日、頂いた意見は、決定的に変更すべきという意見よりも、文言の修正の部分が非常に多かったように思います。本日が最後の会議と思っておりますが、この計画書について、今日頂いたご意見を踏まえて事務局で文言の修正等を行って頂いて、それを委員の皆さんにメール等でお示して、それで決定する形でどうかと思いますが、委員の先生方がでしょうか。そういう形でもよろしいですか。それでは、そういうことで事務局の方で進めて頂きたいと思います。一応予定した内容はこれで終わることになります。私は、今回、こういう復興計画に意見を述べさせて頂くような場を与えて頂いて、本当に感謝しています。しかしながら、本当に熊本の復興ができるのかとか、被災されて非常に困っている方がたくさんおられるわけですが、そういう人達に本当にしっかりしたサポートができるのかなとか、そういったところも非常に責任の重さを感じています。そういった意味では、是非、ここに今日出てまいりました色々な内容、あるいはこれを構築するまでに委員の先生方に頂いた色々なご意見等も踏まえて、何といたってもこれから市の職員の方が、それを実際に実践して頂くステージに移っていくと思います。私は今回震災があって、おそらく市の職員の方は、もう寝ずに、色々な避難所等に行かれたと思うんですね。そういう時に、困っている人たちが何かを求めたいと思うけど、誰にどう言ってもいいかわからない、そこへ市の職員の方が来ると、一生懸命言って、おそらく市の職員の方は、今回の震災で一番大変な思いをされたのではないかと思います。今も色々な方から色々なことを言われて、そういう状況にあるのではないかと思います。しかし、そういったことを受け止めて頂くというのが、非常に大切なことでもありますし、受け止めて頂くというだけで、被災された人たち

の心情はかなり良くなっていくだろうと思います。是非、これからも5年、10年長い歳月がかかると思いますが、市の職員の皆さま方には、重ねてこれから市民の方々のために、本当にご尽力を頂きますようお願いをいたしまして、今日のこの会議を終了させて頂きたいと思いません。ありがとうございました。事務局の方から今後の内容についてお願いいたします。

(事務局)

お世話になりました。ただ今委員長からご説明がありましたように、実質的な審議は今回を持って終わりたいと思います。今後、9月26日に市議会の特別委員会がございまして、そこでのご審議を頂いて、我々としては10月の中旬ぐらいを目途に、議案として市議会本会議に上程することとしています。その結果をもって、また11月には、後ほど私共の方からご案内させて頂きますが、報告並びに今後の取組について少しご紹介をするような委員会を開催させて頂ければと思っています。その中で、復興特別委員会や市議会本会議での審議も予定されています。私共の方も市長を本部長とする復興本部の中で、先ほど申しましたように細かな文言の読み合わせまで含めて、最終的に詰めを行っていますので、いずれにしても、もうすでに最終的な段階かと思っており、大幅な修正はないものと考えていますけれども、今後の議会でのご審議や、庁内での復興本部での議論の中で修正があった場合は、これまで同様、委員長にご報告申し上げて、ご確認頂きたいと思っています。そして最終的に議案として10月中旬あたりを目途としていますが、議案として、市議会本会議に提案する案については、事前に皆さま方にメール等で、最終確認とご報告の意味を含めてお送りしたいと考えています。また委員の皆さまの中には、鈴木先生、小林先生には、しごと・ひと・まちで引き続きご協力を頂いていますし、松田先生、相藤先生、菅野委員には、地域防災計画の見直しにもご協力を頂いていますので、今後とも色々な形で是非ともご協力をお願いして、また11月を目途には、最終報告会がきちんとできるように頑張ってまいりますので、今後ともご協力お願いしたいと思います。

(中山委員長)

ありがとうございました。今後の進め方等について、今ご説明を頂きました。そういう形で今後進めさせて頂きたいと思っていますので、委員の先生方よろしくお願ひしたいと思っています。それでは、最後になりますけれども、事務局の方から今後の予定についてお願いいたします。

(事務局)

結果報告等に関します次回の開催について、少々期間が空きますけれども、11月2日、水曜日、時間は18時30分から、会場は、こちらの本庁舎のモニター室で開催したいと思っていますが、いかがでしょうか。

(中山委員長)

よろしいでしょうか。それでは、よろしくお願ひいたします。